

認知症高齢者に対する遠隔によるデジタル認知刺激療法の研究



浅野 朝秋

Tomoaki Asano

准教授 博士（保健学）

大学院医学系研究科 保健学専攻 作業療法学講座

研究キーワード

認知症, 認知刺激療法, 回想療法, 遠隔介入, 家族参加

研究概要

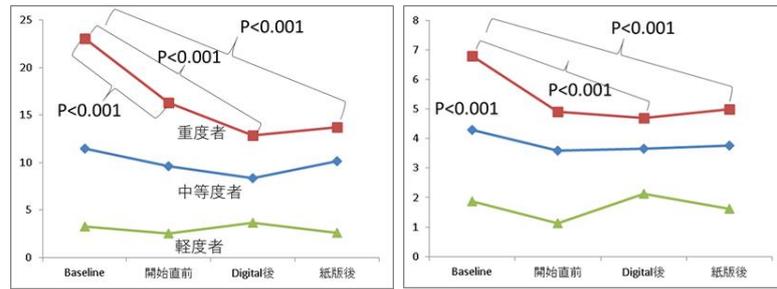
- 思い出の写真や音楽やなじみの深い物品などを認知的刺激として用いて、認知症者と関わり、抑うつ気分や周囲との交流を改善する認知刺激療法は、軽度～中等度者に対するエビデンスを有する有望な方法です。
- Covid-19の蔓延下、認知症者に対する面会制限や介護施設の利用制限は継続中で、さらなる認知機能の低下や抑うつや無気力の進行が危惧されています。
- 認知刺激療法はデジタルデータとの親和性が高くICT技術を用いて遠隔で関わることも可能です。しかしまだ遠隔やデジタルで関わることの効果は十分検証されていません。
- タブレットPCで個人向けに作成したアルバム（キーワード右隣）を一緒に見ながら会話する試みでは、不穏や抑うつおよび介護負担の軽減などに有効な結果が得られています（右図上）。現在は、ご本人と療法士に加えて家族が遠隔で参加する関わりを試行中であり、まだ少数例ですが有望な結果が得られております（右図下）。

予想される応用例

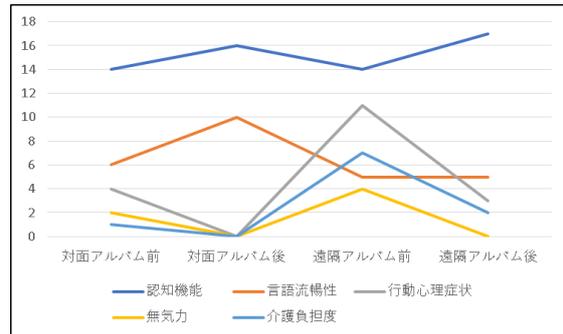
- 遠方のご家族が施設内の療法に参加
- 自宅から療法士のサービスが受けられる



デジタルアルバムの効果（行動心理症状/介護負担）



対面（本人・療法士）と遠隔（家族+本人・療法士）



産業界へのアピールポイント

- 認知症の方がわかりやすいデジタルコンテンツの内容や見せ方についてノウハウや知見があります
- 認知症の方が使いやすい道具や住環境に関しても知見があります
- 秋田県内の病院/施設のご協力の下、研究を予定します

